



問

低地帯区域、高茶屋地区・藤水地区の浸水対策は

全国的にも甚大な被害が生じた令和6年8月の台風第10号の影響により、高茶屋地区・藤水地区では、冠水した道路で車両が立ち往生するなど、市民生活に大きな影響があった。その後、浸水被害軽減に向けた対策がされていますが、今後も着実に事業を進めることが必要と考える。

高茶屋地区・藤水地区の浸水対策についての進捗しんはいかがか、質問いたします。

答

雨水幹線の整備など、浸水対策を進めている

低地帯区域の浸水対策について、津市では昭和35年度から、雨水幹線やポンプ場の整備を進めており、ポンプ場などの排水能力は昭和49年時点から約5倍に向上している。しかしながら、局所的に道路冠水が発生しているため、現在、藤方地区の藤方第2雨水幹線築造工事や天神大新田地区の天神ポンプ場に接続するための雨水幹線整備を進めている。

また、一部の場所で冠水が発生するなどの問題に対しては、水路や升の改良および管理に加え、既設水路へ取付管を接続するなど、状況に応じた対策が重要だと考えている。

その他の質疑・質問

- 木造住宅耐震化について、新耐震基準の支援は
- 岩田池公園の整備状況と今後の公園管理は
- 社会福祉法人の指導監査について
- 「レークサイド君ヶ野」「道の駅美杉」「錫杖湖水荘」、市直営施設の運営状況と経営改善は
- 教育方針より①教師が教えるから子どもが学ぶ②バリアフリー化③社会教育、生涯教育は など

津市天神ポンプ場



問

防災における住民主体の取り組みの重要性について問う

従来の行政主導の防災から、住民主体の防災へと意識を転換する必要がある。つまり、「住民を守る」視点から「住民が助かる」視点への意識啓発を進めることが重要である。本市の地域防災力の向上や高齢者および要配慮者支援、行政の役割の再定義と防災施策の今後の方向性などの各課題について、「命を守る」防災の視点から、本市の現状と今後の取り組み、考え方を問う。

答

地域と連携し、津市全体としての災害対応力を高めていく

本市では、自治会や自主防災会による学習会などを通じて、適切な避難行動の要領や避難の際に注意すべき点などを説明している。また、個別避難計画には、支援者や支援方法を具体的に定めているほか、配慮すべき事項を記載するなど、支援者の方々の共助に基づく取り組みを進めている。

令和6年度には、災害時受援計画の大幅な改定と道路啓開計画の策定を行い、迅速かつ円滑な救出救助活動ができる環境を整備するなど、公助の取り組みを強化した。防災訓練や研修会を通じて、引き続き自主防災会や消防団などと連携し、津市全体としての災害対応力を高めていく。

その他の質疑・質問

- 不登校児童生徒の健康診断について
- 年末年始の応急診療について
 - 応急クリニック等の年末年始の状況と課題は
 - 課題を踏まえた今後の対応は
- 舗装道路の管理、保全について
- 電子入札の導入について
- マイナカードの更新の集中と対応について

津市応急クリニックでは、年末年始においても診療を行っている

